

Report_1……男女共同参画フォーラム

「没後30年 外交官杉原千畝を語る！」を開催しました 2016年10月8日
於 鎌倉生涯学習センターホール

鎌倉で晩年を過ごし、昨年没後30年を迎えた外交官杉原千畝の功績を広めるため、外務省外交史料館課長補佐の白石仁章さんの講演と俳優水澤心吾さんによる一人芝居「決断 命のビザ～SEMPO 杉原千畝物語」を開催しました。

講演では、杉原氏の偉大な功績ともに、優しい人柄についても語られ、一人芝居では、杉原氏のビザ発行の際の苦渋の決断が鬼気迫る演技で、観客を魅了しました。

フォーラム冒頭ではイスラエル国駐日大使にご挨拶をいただき、イスラエル国民からの深い尊敬や感謝の気持ちが伝えられるなど、充実したフォーラムとなりました。



Report_2……かながわ女性の活躍応援団啓発講座

「かまくら女性の活躍推進シンポジウム」を開催しました 2016年11月30日
於 鎌倉商工会議所ホール

第1部では、「ダイバーシティの推進を組織の力に」と題し、(財)日本生産性本部ダイバーシティ推進センター長谷川真理室長による基調講演がありました。女性職員の意識を変えていくとともに職場にも多様なものを受け入れる環境が必要である、女性の活躍は組織環境の変化をもたらす、それが事業展開に好影響を与えることもあり、企業戦略として位置づけるべき課題である、というお話でした。

第2部では、中本テリー氏(鎌倉市男女共同参画推進委員会副委員長)をコーディネーターに、第1部に引き続き、長谷川真理さん、「かながわ女性の活躍応援団員企業」富士屋ホテル株式会社管理本部総務部次長久保田紀和さん、株式会社カヤック 人事部長 柴田史郎さん、鎌倉RoseCoeur(ロゼクール)代表宮地一美さんによるパネルディスカッションが行われました。パネリストからは、富士屋ホテルの女性スタッフによる商品開発の事例や役員女性の割合等について紹介があり、途中からは、参加者との質疑応答形式で進められ、参加者全体の距離が近く感じられる活気あふれるシンポジウムでした。



* 鎌倉市女性相談のご案内 *

夫婦、家族関係、セクシュアル・ハラスメント、女性に対する暴力など、お気軽にご相談ください。専門の女性相談員が、問題解決に向けてあなたと一緒に考え、気持ちの整理のお手伝いをします。相談は無料です。秘密は守ります。

【鎌倉市女性相談(電話・面接 ※面接は予約制です)】

☎0467 (23) 9311

月～金(祝日・年末年始を除く)

10時～13時 / 14時～16時30分

* 募集 *

あなたも「アンサンブル21」の活動に参加してみませんか!

アンサンブル21は、男女共同参画社会の実現のために、行政と市民がともに考え行動する組織として設置された市民ネットワークです。アンサンブル21では、一緒に活動に参加していただける会員を募集中です。

【活動内容】

- ・フォーラムやセミナー等、啓発イベントの企画・開催
- ・情報紙「パスポート」の企画・取材・原稿作成

お問い合わせ: 鎌倉市文化人権推進課 ☎0467-61-3870

IKEBANA SALON いけばなサロン

いけばなと国際交流を楽しみましょう!

小原流若樹会代表・小原流一級家元教授

栗村 淑香

鎌倉市佐助 1-10-25 T/F0467-23-3190



LA PASSION * フランス食堂

フランスの家庭料理が食べられるお店

鎌倉市雪ノ下1-8-36

津多屋ビル B1F

tel: 0467-24-4242

http://lapassion.info

Open: 12:00 ~ 16:00 (L.O.15:00)

18:00 ~ 23:00 (L.O.21:00)

Close: 月曜日



発行/鎌倉市(経営企画部 文化人権推進課) 〒248-8686 鎌倉市御成町18-10 TEL.0467-61-3870

企画・編集/アンサンブル21 情報紙部会 発行2017年3月

Passport

女と男の豊かな生き方を探る情報紙

パスポート



INDEX

■ すてきな生き方……写真家 都筑健一さん

■ 特集……「パスポート」創刊50号を迎えて

■ Report……「没後30年外交官杉原千畝を語る！」 / 「かまくら女性の活躍推進シンポジウム」

Vol. 50
2017 鎌倉市

すてきな生き方

写真家 つづき けんいち
都筑健一さん
(雪ノ下在住)



鎌倉市民のレガシーを撮る

創業100年を越える「つづき写真館」の2代目

大正12年、鎌倉生まれ。家業の「つづき写真館」を引き継いで、93歳の今日まで記念写真を撮り続け、時代と人の移り変りの貴重な証言者でもある都筑健一さん。

長い人生には戦争で鎌倉を離れた苦しい時代があった。くわしいことは『回想 戦争と鎌倉人』(戦争体験記出版委員会編、平成8年)に「シベリヤの抑留体験」として掲載されている。

過酷な抑留生活から、運良く最初の引上げ船で昭和21年12月10日に復員することができた。舞鶴に着いた時は吹雪の雪景色だったが「祖国の雪は雪まであったかいや!」と戦友と喜びあった。空襲を免れて変わらない故郷・鎌倉にようやく生還した実感を味わった。

さっそく家業の写真館を再開。進駐軍の兵隊がけばけばしい日本女性を連れて写真を撮ることもしばしばあり、敗戦の惨めさを感じることもあった。戦前この近辺は横須賀海軍の軍人家庭が多く、出張撮影、入隊・昇格記念写真などが多かった。戦後は幼稚園、小・中学校、女子校などの入学式、卒業式など、人生の記念写真が多くなったことでも平和を実感できた。学生時代も軍隊も、男ばかりの世界にいたので、最初のうちは女子校に仕事で行っても恥ずかしくてなかなか校舎に入らず、校庭の樹木の陰に立っていたこともあった。

昭和25年に友人の紹介で、横浜に住む英子さんとお見合いをし、ひと目で気に入って結婚。

以来英子さんは、お客様の髪や衣服を整える役目など、頼もしい助手となつてかいがいしく働いてくれた。戦後のめざましい復

興は鎌倉にも及び、仕事は多忙を極めた。高度成長期の成人式の日には、夜明けから華やかに着飾ったお嬢さんたちの撮影で大賑わいであった。

地域のロータリークラブ、商店会、みらいふる鎌倉、などの会長もつとめた。

世の中が落ち着いてくると戦友の消息を情報交換し合い、戦友会を発足して各地で会を開いてきたが、今では最高齢者になってしまった。

戦後70年過ぎても悲惨な戦争体験は生々しく記憶されていて、戦線、シベリア抑留から奇跡的に生還した者の使命として戦死した戦友の供養は忘れることはない。

鎌倉市の小中学生に戦争体験を語ることもしばしばあり、今は数少なくなった生き証人として長生きしなくてはと自身に言い聞かせる。よきパートナーだった愛妻に2年前に先立たれ、思い出の写真と共連れの毎日。

記念写真は、誕生から始まって人生の節目の度ごとに撮影するので、お客さんとは長い付き合いになり、撮影した人はのべ10万人を越えるだろう。大正初期にお父さんが鎌倉で開業してから今日まで、撮り続けた幼稚園、各校の入学・卒業アルバム用の原版などが図書館や各学校に寄贈された。貴重な懐かしい記録写真はまさに鎌倉市民のすばらしいレガシーである。

(写真機は、愛用されたスタジオカメラ・アンソニー)



「パスポート」

特集

創刊50号を迎えて

1号～10号 ◆◆【1992～1997年】

91年に「かまくら女性会議*」が発足し、翌年創刊された本紙は、以来年2回欠かさず発行されている。特集は1号「座談会／それぞれの老後 支えあうのは女と男」、2号「男と女 パートナーとしての生き方研究」との基本的なテーマから始まり、女性企業家、家族、働く女性、市政への市民参画、人権などと幅広くとりあげた。



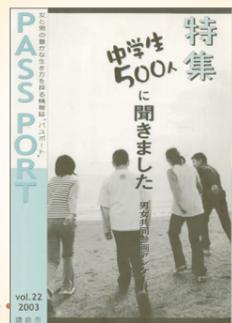
◀1号



▶15号

11号～20号 ◆◆【1997～2002年】

93年の「かまくら女性プラン」策定により「かまくら女性プラン推進会議」が発足。11号でレポート、16号では委員の座談会が特集された。また86年施行の「男女雇用機会均等法」が99年に改正施行、同年には「男女共同参画社会基本法」が施行されたことを受け、15号では「均等法が変わって」を特集。



◀22号

21号～30号 ◆◆【2002～2007年】

2001年に「かまくら21男女共同参画プラン」が策定され、03年に男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」が発足。特集は21号「ジェンダー」、22号「中学生500人 男女共同参画アンケート」、29号「座談会／男女共同参画ってどう思う？」のほか、28号「くらしで見えた母国と日本」で外国籍市民の声も。



▶33号

31号～40号 ◆◆【2007～2012年】

07年に「鎌倉市男女共同参画推進条例」が施行され、31号「新しい条例に期待したい」との特集で始まったこの期間、32号「あなたにとってワーク・ライフ・バランスとは?」、33号「あなたにとっていま、『豊かさ』とは?」からシニアライフ、子育て、家族、自立をテーマとした。11年39号では「鎌倉発! 震災支援活動」をレポート。



◀42号

41号～49号 ◆◆【2012～2016年】

「男女共同参画社会」実現のための法律や条例が施行されて、15年鎌倉市議会初の女性議長誕生、16年「女性活躍推進法」施行となるこの期間、女性の活躍を多くとり上げた。42号「鎌倉発! 女性の起業」、46号「女性経営者の視点から見る男女共同参画」、49号「女性の活躍を応援します!」などを特集。

*かまくら女性会議：1991年5月発足。望ましい男女共同参画社会をつくるための行動計画「女性プラン」について、14人の委員で検討を重ね、1992年12月に市長に仮称「かまくら女性プラン」案を提言し、この提言をもとに、1993年3月に「かまくら女性プラン」が策定された。

だれもが生き生きと豊かに暮らす21世紀の

男女共同参画社会に生きるための「パスポート」(＝通行許可証)……そんな思いが込められ、1992年8月に創刊された本紙「パスポート」は今号で50号を迎えました。節目の今回は、「男女共同参画」を取り巻く社会や人々の意識の変化について、過去の特集から振り返ります。

「かまくら女性会議」元委員より、創刊50号を迎えて、メッセージをいただきました!

●イラストは「パスポート」2号(1993年発行)より、抜粋して掲載。写真は現在のご本人。



さかい かつゆう
酒井捷允さん(当時：市議会議員)

私も議員として、いくつかの審議会に参加した経験はありましたが、「かまくら女性会議」という審議会は、際立って従来のものとは異なるものでした。

まず、「かまくら女性会議」という名称が、男女共同参画社会を目指していると言いつつ、「男」が抜けています。構成委員も14名中女性8名に対して男性6名、委員選出の背景がまたバラエティに富んでいて、特に女性委員は細野カズ子議長が元労働省婦人局、金森トシエ副議長が元ジャーナリストでかながわ女性センターの元所長で顧問、そして女流作家に若手芸術家にPTA、婦人団体の活動家、そして女性教員、この構成がすごいと思いました。男性の理解度(女性との共同参加についての)を試されるようなレポートの提出もあつたり、行政側のルールや予定に関わらずに自由討議も楽しい真剣勝負でした。

特筆すべきは、会が答申後解散したのに「同窓会」と称して、当時関わった市の担当職員の骨折りもあって、毎年集まっては「女性会議」を開いた事です。数年は続いたでしょうか。残念ながら職員の退職やら委員の高齢化もあってとうとう立ち消えになりましたが。



のむらみ やこ
野村美也子さん(当時：アーティスト)

26年前大学院を修了しフリーのイラストレーターとして活動を始めた頃、「かまくら女性会議」の委員と、「パスポート」表紙のイラストとデザインのお仕事の依頼を受けました。表紙のイラストとデザインに関しては本業ですが、「かまくら女性会議」のお仕事は正直なところ、当初1人だけ学生上りの若造といった具合で、場違いな感を否めない緊張感でのスタートとなりました。ところが会を重ねるにつれ、身の丈にあった意見でいい



んだよという和やかな雰囲気の下、楽しい時間を過ごすことができ、またずいぶん勉強させていただきました。

そして現在イラストレーター、大学での講師の仕事をしなが、高校生と中学生の2児の母であり主婦として、まさしくあの頃皆さんと意見を交換し合った男女共同参画を実現出来るように、忙しい毎日を送っております。そしてあの頃にはまだ思いもつかなかった事ですが、自分の息子や娘には是非、当時市長に提言した目標の1つ「生きがいと個性を尊重する家庭づくり」を実現してほしいと思っております。

ひらつか はじめ
平塚肇さん(当時：鎌倉保健所長)

現在も医師として健康診断等で健診に当たる平塚さんは、25年前、鎌倉保健所(現鎌倉保健福祉事務所)長に着任されてから、かまくら女性会議の委員となりました。専門は産婦人科で、当時は夫の立会い分娩や父親教室に参加される方が少しずつ増えてきた頃だったそうです。産婦人科医としての立場からも、策定を進める「かまくら女性プラン」に、女性の生涯にわたっての健康づくり、男性の家庭参加等について意見を述べられたということです。

鎌倉保健所長として鎌倉市で過ごした8年間は、「かまくら女性会議」をはじめとして、医療や保健福祉の現場だけでは知り合うことのできない、多くの方と出会うことができ、とても楽しい思い出があるそうです。



現在も健診をされるなかで、人間関係のトラブルで元気に働くことができない方が多く、心配だということでした。これからは、健康寿命をのばすように健康管理をしっかりしていただきたいと、はつらつとした笑顔が印象的でした。

◆◆◆ 当時事務局担当者より：「かまくら女性プラン」は委員の皆様一人ひとりが、手ずから原稿を分担して書いた、「市民手づくりのプラン」であったことは全国的にも珍しく、委員の皆様も担当者であった者も誇りに思うところでした。